

平成25年度定時総会開催

ごあいさつ

平成25年度定時総会が5月27日開催され、全ての議案に対し会員皆様のご同意を得られ無事終えることができました。改めて御礼申し上げます。

副理事長 大塚勝弘



((株)都市交通テクノロジー
代表取締役)

また、この協会も発足以来4年目を迎えて、現時点で176社、3個人の方々に会員になっていただいております。協会の発足以来皆様のご支援、ご協力のおかげで順調に業務を推進してまいりました。

今年度も定款で規定する重要事業である信号工事士の技能検定試験と技術講習会を実施し、さらに交通信号工事施工ハンドブックの編纂業務は終盤を迎えております。

今後はこれらの事業を着実に推進し発展させるとともに、これらの事業の意義や社会性を広く世間に浸透させるとともに、全国の警察に採用していただくための努力が必要と考えています。それに加え、平成24年3月に三重県警察本部と締結した防災協定は、当協会の社会的役割が一層増加するとともにより明確となってまいりましたが、今年度はそれをより一層明確にするために、「交通信号甲子園」の試験開催をいたしました。これは真に実効ある対応ができる体制を構築するとともに、このような社会性のある多くの課題の解決に一定の答えを出せたのではないかと思っておりますので、会員の皆様方におかれましても、引き続きこれらの協会活動に積極的に関わって頂ければ幸いです。

平成25年度定時総会の開催

平成25年度定時総会の開催

- 平成25年5月27日(月)、東京都台東区 株式会社オーラムにおいて、平成25年度定時総会と懇親会が開催されました。また総会に先立ち、講演が開催され、会員等100名以上の参加をえて、盛況に執り行われました。

定時総会は、丹下正彦理事長の挨拶の後、平成24年度事業報告、収支決算報告及び監査報告が承認されました。

また、理事・監事の任期満了に伴い、新しい理事・監事が選任されました。

- 最後に平成25年度事業計画及び収支予算について事務局から報告があり、無事定時総会が終了しました。

定時総会で配布された資料と総会の様子は、ホームページの「会員専用ページ」でご覧いただけます。

- 定時総会終了後、多数の会員の方々と講演の講師を交えて懇親会が開催されました。

理事長挨拶要旨

最近は専門家の意見よりも、素人の意見が重宝され、専門家の存在が軽んじられるような風潮が見受けられます。

交通信号工事においても、このような問題を抱えているのではないでしようか。信号機業界は生きています。問題があれば、対応しなければ死にます。何時までも健全な業界として生き続けるためには、皆さんと知恵を出し合い、有効方策を策定してこれを実践し、問題を解決してゆかねばなりません。

このため今年度は、各種委員会の在り方に改善を加え、このような取り組みを強力に実施できる仕組みを作り上げましたので、会員の皆様のご支援をお願いするとともに、最後に毎度のことながら、この協会のコンプライアンスに関する、継続的に適正に対応するよう要請される旨の挨拶がありました。



総会状況



総会状況



懇親会風景

高田名誉教授講演

定時総会に先立ち高田邦道日本大学名誉教授の講演が開催され、貴重なお話を伺いました。参加者の多くから大変参考になったと感謝されましたので、講習会の概要を掲載いたします。

先生は、1966年日本大学理工学部交通工学科を卒業され、その後1989年日本大学理工学部教授に就任されました。研究分野は交通工学、交通計画等で、計画・交通研究会理事等多方面で重要ポストを歴任されました。その功績により杵築市制施行50年特別功労者表彰等多数受賞しておられます。また、その研究結果を著した交通工学総論等著書も多数出版しておられます。

2012年日本大学を定年退職されたことにより、交通工学に最も関係ある組織の一つである当協会の理事に就任されました。

講演の表題は「信号機の過去・現在・未来」

○ 信号機の歴史

1868年ロンドン、1918年ニューヨーク、1930年日比谷交差点

○ 信号機の意味

○ 道路機能の格と信号機設置

○ 交通信号機の過去

単独信号機の点制御、系統信号機の線制御。安全のために動線の分離、円滑のために交差部の改修

○ 交通信号機の現在

点制御→面制御→地域制御→広域制御、車線別に制御。交通管制システムの導入

○ 交通信号機の未来

安全・円滑・環境・福祉に対応した制御。例えば環境に対する自転車交通の検討等



ホームページの「会員専用ページ」で講演内容を動画でご覧いただくことができます。また、配布された資料はダウンロードできますので、社員の皆様にもご活用をお勧めください。

24年度事業報告

【事業の成果】

当協会の制度として平成22年度に創設した「交通信号工事士技能検定制度」を推進するため、本会会員を対象とする第2回技能検定を実施するとともに、本技能検定制度の意義が社会的に浸透するよう各種の取り組みを行いました。特に、当年度は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により交通信号機も甚大な被害を受け、多くの教訓を残しましたが、この教訓を踏まえ、会員のほか、警察関係者、関係業者を対象に「防災に関する講演会」を平成24年9月27日実施しました。

【各事業の実施結果】

■ 交通信号施設工事に関する技能検定実施結果

交通信号工事士技能検定制度実行委員会を中心に準備に取り組み、6～7月に全国7地域で交通信号工事士技能検定試験を実施し、678名が合格しました。

■ 交通信号施設工事に関する技術・技能研修実施結果

技術講習会運営委員会が中心となって準備を進め、5～6月に全国4地域で技術・技能講習会を実施し、152名が受講しました。

■ 「交通信号工事施工ハンドブック」編纂の取組状況

施工ハンドブック編纂委員会が中心となって検討を進め、ハンドブックの目次と執筆要領を作成して執筆分担を行い、翌年度に完成、発行することを目標に原稿執筆作業を精力的に推進しました。

■ その他の活動

- 防災に関する講演会の開催
- 情報発信の取組
- 会員拡大に向けた取り組み
- 協会の意義・役割についての理解向上を図る取組

【平成24年度収支決算】 単位:円

(収入)	
1 入会金	1,470,000
2 年会費	9,269,000
3 事業収入	6,856,575
4 分担金収入	335,000
5 雑収入	35,493
収入合計	17,966,068
(支出)	
1 事業費	6,575,882
2 管理費	7,244,500
支出合計	13,820,382
当期収支差額	4,145,686
前期繰越収支差額	11,910,649
次期繰越収支差額	16,056,335

25年度事業計画

【事業実施方針】

平成25年度においても、「交通信号工事士技能検定制度」を推進するため、本会会員を対象とする第3回技能検定試験を実施するとともに、「交通信号工事士技能検定制度」の意義を社会的に浸透させるための各種取組みを推進し、平成26年度から予定している本制度の本会会員以外への開放に向けた準備を着実に推進します。

また、本会会員に対する技術講習会を実施するとともに、各委員会活動を活発に推進し、特に交通信号工事施工ハンドブック編纂は最重要課題として取組みます。

さらに、平成24年3月に三重県警と締結した「災害時における交通安全施設の復旧に関する協定」に的確に対応するための体制を整備し、この取り組みを全国的に展開し、併せて本会の存在意義や役割についての業界関係者や警察機関の理解が一層深まるよう広報活動にも努めます。

【各事業の実施事項】

■ 調査研究事業

各委員会において各種課題についての調査研究を推進します。特に、平成26年度から交通信号工事士技能検定試験を本会会員以外にも開放する予定のため、教材となる「交通信号工事施工ハンドブック」の編纂を完了させることを重点課題として取組みます。

■ 技術・技能研修事業

5月下旬、盛岡、東京、横浜、金沢、山口の5会場で、本会会員を対象とする交通信号工事技術講習会を開催します。

■ 交通信号工事士技能検定事業

6月中旬から、仙台、東京、名古屋、大阪、岡山、福岡の6会場で、本会会員を対象とする『第3回交通信号工事士技能検定試験』を実施します。

■ その他目的達成に必要な事業

○ 「災害時における交通安全施設の復旧に関する協定」に基づく対応体制の整備を図ります。

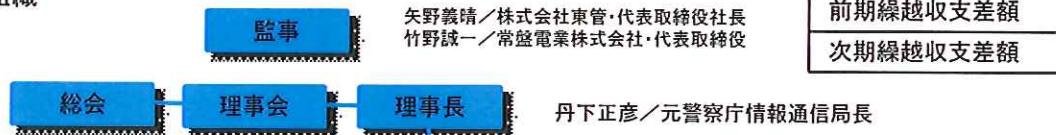
○ 交通信号工事の技術向上等を目的として「信号工事甲子園」の名称のもと、交通信号工事施工の競技会を試験的に開催します。

【平成25年度収支予算】 単位:円

(収入)	
1 入会金	1,300,000
2 年会費	9,824,000
3 事業収入	4,617,500
4 分担金収入	600,000
5 雑収入	10,000
収入合計	16,351,500
(支出)	
1 事業費	9,457,551
2 管理費	9,305,200
支出合計	18,762,751
事業活動収支差額	△2,411,251
予備費	1,000,000
当期収支差額	△3,411,251
前期繰越収支差額	16,056,335
次期繰越収支差額	12,645,084

【協会の構成】

①組織



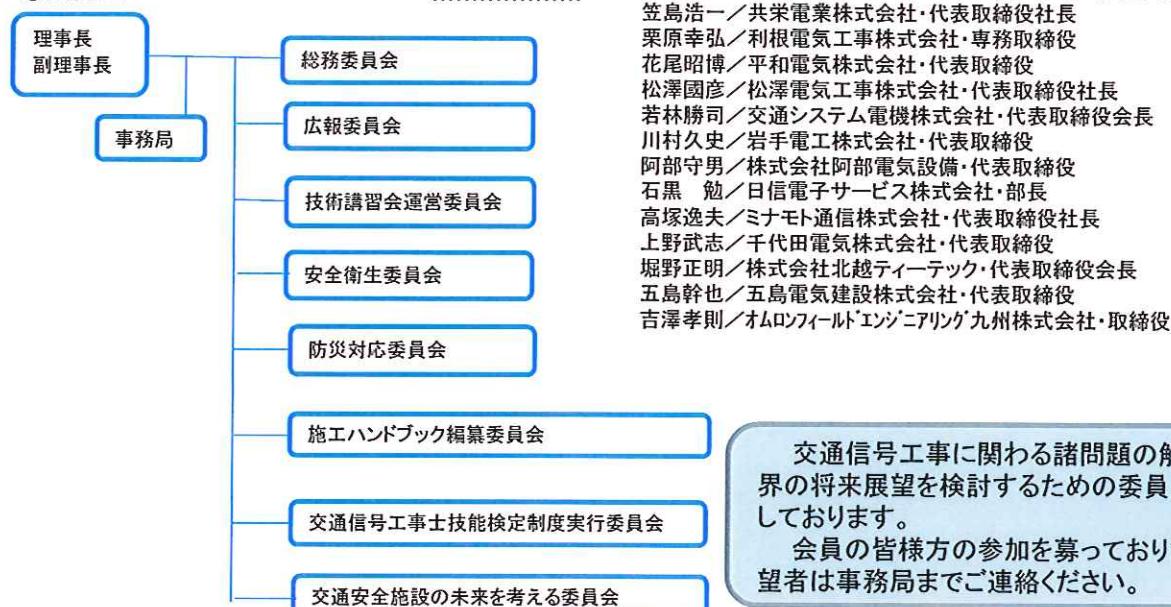
丹下正彦／元警察庁情報通信局長

大塚勝弘／株式会社都市交通テクノロジー・代表取締役

古市光明／株式会社シンコーワ・代表取締役
松原一朗／北明電気工業株式会社・代表取締役社長

高田邦道／日本大学名誉教授
高木潤次／オムロンフィールドエンジニアリング株式会社・部長
笠島浩一／共栄電業株式会社・代表取締役社長
栗原幸弘／利根電気工事株式会社・専務取締役
花尾昭博／平和電気株式会社・代表取締役
松澤國彦／松澤電気工事株式会社・代表取締役社長
若林勝司／交通システム電機株式会社・代表取締役会長
川村久史／岩手電工株式会社・代表取締役
阿部守男／株式会社阿部電気設備・代表取締役
石黒 勉／日信電子サービス株式会社・部長
高塚逸夫／ミナモト通信株式会社・代表取締役社長
上野武志／千代田電気株式会社・代表取締役
堀野正明／株式会社北越ティー・テック・代表取締役会長
五島幹也／五島電気建設株式会社・代表取締役
吉澤孝則／オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社・取締役

②委員会



交通信号工事に関する諸問題の解決や業界の将来展望を検討するための委員会を設置しております。

会員の皆様方の参加を募っております。希望者は事務局までご連絡ください。

交通信号甲子園(試験開催)

平成25年6月3日、三重県菰野町(株)シンコーワ会社内において「交通信号甲子園」が試験開催されました。

交通信号甲子園の目的は、交通信号技術の向上及び継承、平成23年度に三重県警察本部と締結した「災害協定」に基づく訓練、そして東日本大震災における災害復旧の遅れの原因の一つである都道府県によって異なる工事仕様を克服するために試験開催されました。参加者は、全国8社選抜により競いました。

大会に先立ち、(株)シンコーワの有志による三重県仕様による模範演技と当協会の安全衛生委員会によるAED講習会を開催しました。

来賓には、三重県警察本部交通部交通規制課長様他多数参列されました。

丹下理事長の開会挨拶に始まり、五島電気建設(株)丸谷樹美夫選手による選手宣誓、そして古市広報委員長の競技開始の合図により競技が開始されました。

競技は柱上間のケーブル架設工事及び結線、歩行者用灯器の設置工事及び結線、そして取り付けた部材の撤去工事を1時間内以内で安全、確実そして迅速に行う内容となっております。

競技中、選手は三重県仕様に不慣れのためか、日頃の迅速な実力が発揮できず時間内に終了できないチームもありました。そして選手は日ごろの慣れ親しんだ仕様との大きな違いに戸惑いと驚きを隠せず口々にしていました。

優勝は、神奈川県から出場の千代田電気(株)。内容が班長の指示が的確であったとの迅速性に優れていたためでした。なお、その他の受賞チームは下記のとおりです。

閉会にあたり、丹下理事長と三重日信電子(株)小山代表取締役から総評をいただき、盛況のうちに無事閉会しました。

今後の開催については、「信号工事士」認定試験の実技試験等への採用も含め、協会員の意見を参考に交通信号甲子園の継続を検討したいと考えています。

2013年(平成25年)6月4日(火曜日)



選手宣誓



柱上での競技



表彰風景

優勝
準優勝
三位
迅速性部門賞
安全性部門賞
正確性部門賞
アイデア賞
特別賞

千代田電気株式会社 (神奈川県)
株式会社コアテクノ (大阪府)
五島電気建設株式会社(京都府)
株式会社愛岐通信 (岐阜県)
常盤電業株式会社 (東京都)
北明電気工業株式会社 (北海道)
洸陽電気工事株式会社(大阪府)
有限会社アサヒ電設 (三重県)

お問合せ先

〒110-0015 東京都台東区東上野1丁目21番4号

一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局

TEL:03-3835-1740 FAX:03-6675-4475

URL:<http://www.tscta.jp> E-mail:info@tscta.jp